

地域包括ケアネットワーク No.99

赤磐医師会の地域包括ケアへの取り組み

赤磐医師会理事 間阪 拓郎

赤磐医師会は赤磐市、岡山市東区瀬戸町の地域の医師から構成される医師会であり、県内唯一の医師会立の赤磐医師会病院を有しています。赤磐医師会病院はこのコロナ禍の3年間、COVID-19患者の入院も積極的に受け入れ、地域の地域包括ケアシステムの中核を担う病院として、急性期医療からへき地医療を含め、地域の様々なニーズに対応してきました。高度急性期病床を担う岡山市内の大規模病院と密に連携し、ポストアキュートの患者さんを受け入れ、住み慣れた地域の地域包括病棟にて、在宅復帰まで入院生活を送ることも可能となっています。また、新型コロナウイルスワクチン接種においては、赤磐市の大規模集団接種に大きな役割を担いました。また、令和2年11月には、赤磐医師会病院に併設して、“あかいわ☆瀬戸休日診療所”が開設され、自院では空間的に発熱患者の動線を分けることが困難な医療機関であっても、安心して当番医が出務できる環境が整い、地域の方々にも広く認知されるようになってきました。

一方、地域包括ケアの構築を目的として、赤磐医師会は赤磐市とともに赤磐市在宅・介護連携推進協議会を運営しております。新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2年度は市民向けの在宅医療の講演会を小人数に限定して開催したのみでした。翌年の令和3年度も多職種連携事業として行っていたケアカフェや、市民の方々を対象とした赤磐市在宅医療介護連携フェアは開催できませんでした。その間、赤磐医師会病院と在宅支援者との連絡会や訪問介護、訪問看護事業所連絡会を行い、コロナ禍における在宅医療・介護の感染対策や情報共有などについて協議を重ね、赤磐市認知症集中支援チームに赤磐医師会より認知症サポート医を派遣し、助言を行ってきました。令和4年度は11月に在宅医療・介護連携普及啓発事業として、一般住民の方々を対象に、「第5回赤磐市在宅医療介護推進フェア」を赤磐市と共催でなんとか開催することができました。在宅医療に関連した映画の上映、在宅医療・介護サービスの紹介をさせていただきました。また、この事業で専門職へのアンケートを行ったところ、在宅医療・介護の現場において、精神疾患を有する利用者および御家族への対応に苦慮しているという意見が多かったため、12月に専門職研修として、精神疾患を有する対象者を理解するための研修会を開催しました。この研修会は多くの専門職の方々が参加され、大変好評であり、岡山県精神保健福祉センターの御協力で引き続き、定期的に事例検討会を開催することになりました。

コロナ禍以前よりACPの普及については、赤磐市在宅・介護連携推進協議会において、多職種向けに研修会を行い、一般住民の方々へは講演会やパンフレットで普及啓発に努めてきました。令和5年度の事業計画にあたり、COVID-19の感染拡大期において、自宅やクラスターの発生した高齢者施設にて、COVID-19罹患者が重症化した際の入院調整時に、いわゆるDNARの有無の確認等に多大な労力が必要だったとの意見があり、令和5年度の事業として、コロナ禍の知見を踏まえ、7月にACPの研修会を開催いたしました。この研修会では、ZOOMを利用して広く高齢者施設の職員の方々にも参加していただき、コロナ禍でもQOLを踏まえたACPが実践できるように、様々な職種の方々がACPへの理解を深めることができたのではないかと思います。9月にはコロナ禍で3年間休止していた「第14回ケアカフェあかいわ」を開催し、久々に顔の見える多職種連携を深めることができました。令和5年11月に開催する予定の「第6回赤磐市在宅医療介護推進フェア」では、一般住民の方々を対象に、コロナ禍での知見を踏まえたACPの普及啓発、在宅医療をテーマに講演会を行う予定です。

赤磐医師会のエリアは南部の岡山市のベッドタウンの住宅地がある比較的人口の多い地域と北部の人口が少ない地域からなり、南北で年齢分布や医療・介護資源において大きな差があります。こうした地域の特性に合わせた地域包括ケアシステム作りが不可欠であることを踏まえ、赤磐医師会は行政と密に連携しながら、地域包括ケアの構築に努めております。